

8月6日の豪雨災害について

問い合わせ 総務課 ☎2119



大雨時の防災対策

8月6日の大雨時に、119番通報、市役所へ被害の通報や土のうの搬送依頼が多数寄せられました。

しかし、市内で同時多発的に浸水被害などの災害が発生した場合、市が対応するには限界があります。

そのために、日ごろから、いざというときに迅速に対応できるように各自で土のうを備蓄することも有効です。

また、自治会や自主防災組織など地域で被害を少なくしていく取り組みも重要となってきました。市としてもこれまで以上に市民の皆さんに対する啓発活動や自主防災組織の育成・支援に取り組んでまいります。

そこで各自でできる土のうの作成方法や保管方法を紹介いたします。



土のうの作り方

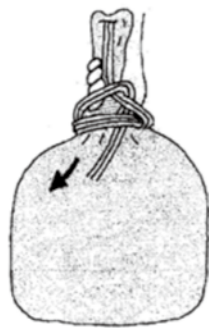


①スコップで5～6杯程度の土を入れます。重さにすると約20kg程度が持ち運びに便利です。袋の約5～6割程度の土を入れます。女性や高齢者など重たいものを持ち上げにくい方は土を少なめに入れましょう。



②袋のひもを引いて、袋の口を絞ります。

③引いて長くなったひもで、袋の口のまわりを2回まわして軽く締めます。



④まわしたひもの内側を、ひもの先を上から下に通してしっかり締めると完成です。

完成した土のうを日の当たる場所で長期間保管すると、紫外線により袋が劣化してしまいます。

軒下や日陰、風通しの良い場所で、ブルーシートなどで覆うと長期間の保存ができます。

り災証明書の発行について

8月に発生した大雨災害により建物や家財に被害を受けた方で、保険の請求や勤め先への届け出のときに証明が必要な場合には、り災証明書を発行します。

ご不明な点は総務課にお問い合わせください。

問い合わせ 総務課 ☎2119

【申請に必要なもの】

被害を受けた場所の写真または被害を受けたことを証明できるもの

- 写真
- 業者の見積書
- 修理後の領収書 など



木野2丁目 土砂流出状況



立戸4丁目 冠水状況



立戸保育所付近の土砂災害

8月6日、大竹市には50年に1度と言われる大雨が降りました。4時からの1時間の雨量が立戸観測所において67ミリ、2時から5時までの3時間で138.5ミリの降雨を記録しました。1時間雨量は、平成24年7月の67ミリと並ぶ過去最高の降水量でした。

今回の大雨により、特に白石・本町・立戸・栄町・小方地区などを中心に、床上浸水約120戸、がけ崩れなどの被害が約60カ所(災害対策本部へ情報提供があったもの)発生しました。

また、土砂災害の危険により4地区(立戸一・二丁目、白石一丁目(一部)42世帯90人)を対象に避難勧告を発令しました。大雨および台風11号に

よる市内における避難者数は、最大32世帯68人にのぼりました。

大雨などによる災害から身を守るために

集中豪雨による水害や土砂災害は近年全国的にみても徐々に増加しています。

河川など下流域での水位は低いようでも、上流で大雨が降れば一気に下流域の水位が上昇する場合もあります。

また、土砂災害はその危険性を事前に目で確認することや予測することは、なかなか困難とされています。激しい雨の中や夜間では避難所などへ移動することも困難や危険が伴います。

このような災害から身を守る

るために、一人一人が日ごろから災害に対する心構えを持ち、水害や土砂災害が発生する前に避難すること、川や崖などの危険な場所から離れ、近づかないことが大切です。

避難する時間的余裕が無い場合には、次善の策として丈夫で安全な建物に留まることや、屋内の2階以上の階、土砂災害などの危険がある場合は崖から離れた場所の2階以上の階に移動することも有効です。

平成25年に土砂・浸水避難地図(ハザードマップ)を全戸配布していますので、事前に住んでいる地域の土砂災害危険箇所や避難経路、避難所の確認を行い、いざというときに迅速に行動できるよう備えま

市が発令する避難に関する情報

市では、土砂災害の危険などがある場合、各種防災情報や気象台からの情報を活用し、避難勧告などの避難に関する情報を発表しますが、土砂災害などの前兆現象や、浸水の危険性がある場合は、発令を待つことなく早めに避難しましょう。

災害時の情報収集

この度の大雨により、大竹市に土砂災害の危険を知らせる土砂災害警戒情報が発表され、防災行政無線で放送されました。

災害時には早めに、テレビやラジオ、携帯電話などで各種防災情報の収集に努めましょう。

土砂・浸水避難地図(ハザードマップ)は、市ホームページにも掲載されています。